

松阪市新エネルギー推進委員会第4回木質バイオマス専門部会

日時： 平成27年3月17日（木） 午後7時00分～午後9時00分

場所： 松阪市飯南林業総合センター 会議室

概要： 1. 松阪市バイオマス利活用推進調査研究の報告について
2. その他

出席： 16名

（委員）4名

大西大輔部会長、中谷正則、川口伸、西川幸成

（アドバイザー）2名

三重県松阪農林事務所 森林・林業室 中村好範、北出満

（名古屋大学）2名

高野教授、研究補助（井筒）

（事務局）8名

武田環境・エネルギー政策推進課長、磯田スマートワーク推進担当監兼環境エネルギー政策室長事務取扱、徳田環境エネルギー政策室主任、環境エネルギー政策室（世古）、長井林業振興担当監、林業係（北垣戸・山下）杉本松阪飯南森林組合参事

傍聴者： 0名



〈議 事 等〉

(1) 松阪市バイオマス利活用推進調査研究の報告について

事務局：

- ・森林活プロジェクトがはじまった。
- ・木質バイオマス利活用について名古屋大学による調査を行った。その報告をお願いする。

名古屋大学：

- ・名古屋大学より調査に関する説明

名古屋大学：

- ・木質バイオマス利活用推進調査報告書にもとづいて説明。
- ・現状では、市内からの木質バイオマス発電所への材の供給量は少ない。
- ・その理由としてB,C材の行き先がもう決まっているという事情がある。
- ・したがって発電所への供給量を増やすには全体の搬出量（A材を含めて）を増やす必要がある。
- ・そのために、新規林業者の創出、皆伐面積の増加、切捨て間伐から搬出間伐への移行が必要。
- ・森林活プロジェクトは新規林業者創出の足がかりとして人材育成と組み合わせて推進する必要がある。
- ・皆伐面積増加については、低地と奥地で分けて考える必要がある。現状で年間10haを30haへの増加を提案。そのためにhaあたり30万円の補助金が有効。
- ・切捨てから搬出間伐への移行については、現状では間伐の74%が切り捨て。作業道開設補助金、架線設置補助金が有効。
- ・まとめとして、短期的にはこれらの施策によって11000m³の出材量増加が見積もることができ、これによって20人程度の雇用創出につながると考えられる。
- ・長期的には森林・林業マスタープランを策定し、その中にバイオマスエネルギーの利用推進、自伐型林業家の養成、などを盛り込むことが必要。

部会長：

- ・森林活プロジェクトの滑り出しについて説明。
- ・登録者51名、出荷者32名、47日で298.8tが集まった。予想を上回った。
- ・最高の人は70tを持ち込み、約42万円の収入となった。
- ・トラックスケールは今年度はレンタル。来年度早々に3箇所のトラックスケールを松阪市から支援いただく予定。飯南、飯高、松阪の3箇所で受け入れ予定。
- ・集まった材はすべて発電所に搬入。
- ・長さがまちまちで30cmから4mまで出てくる。途中で2種類の仕分けをした。
- ・徐々に浸透し、これまで組合と関係なかった人も参加している。
- ・飯高、嬉野などの人も持ってきた。
- ・自分の山が中心、他の人の山の場合もある。間伐して持ってくる。
- ・過去に間伐したところ、道端の木を持ってくる。
- ・新規に間伐をやる山主が2,3人出てきた。
- ・退職後に機械を買って専門にやりたいという人も出てきた。
- ・森林組合内部では、事務方は苦勞していたが、やる気を持って前向きにやってもらえた。組合にとってはプラス。
- ・今後は伐採を森林組合がやり、森林活への持ち込みを山主にやってもらうような働きかけをしたい。
- ・商工会が商品券の発券量が多くてびっくりしていた。500円券で札束になる場合が

あった。

- ・商品券を使えるお店を増やしてもらってはたらしかけをする。組合でも使えるようにしたい。

委員：

- ・地元から燃料材を出していただけるのはありがたい。
- ・トラックの積み込みが難しく、非効率な点がある。
- ・材の乾湿はばらばら。半分に割ってから 10 日くらいかけて乾燥させる。これで特に問題はない。
- ・発電所は順調に運転されている。

名古屋大：

- ・これだけの林業・林産業がある松阪市においてはマスタープランが必要ではないか。

事務局：

- ・前向きに検討したい。参考となる事例はないか。

県：

- ・県内の他の市町ではマスタープランを作っているところはない。

名古屋大：

- ・岡山県西粟倉村では 100 年の森林構想があって、A 材利用からはじまって C 材利用に到達した。林業先進地から視察が来る。松阪市でマスタープランがあれば外の人に対する松阪のブランディングができる。

県：

- ・架線集材はまったく実施されていないわけではない。
- ・雇用数の見積もりはこれでよいか。

委員：

- ・皆伐は原則架線でやっている。
- ・出材量として一人年間 1000m³ 弱くらいは出る。

委員：

- ・7500 円/t で買っているが、場所によっては 8000 円/t のところもある。距離や積み下ろしの手間などの関係でこちらが安くても持ってくる場合がある。当方としてはできるだけ単価を高くしたい。
- ・PPS で電力を地元銀行に小売する試みをする。電力が高く売る工夫をしたい。
- ・焼却灰について、販売したいがどうすればよいかわからない。処分費は年間 8000 万円から 1 億円。灰は燃料の 1% くらい。
- ・防草剤として太陽光発電所で使いたいという需要がある。
- ・溶出検査、取引先が複数必要などの県の規制があり、現状では販売できない。
- ・松阪市でバイオマスボイラー（熱利用）の需要は出ないか。エネウッドは未利用材しか取り扱わないので、一般木材となる皆伐で森林計画たててないもの、林地開発

(ソーラー、風力開発にともなう伐採など)の材などの需要をつくれないうか。市内で需要がなければ多気町に計画中の発電所にもっていくことになる。

名古屋大：

- ・市内の製材所で背板はどこに行っているか。

県：

- ・それぞれにチップにして活用している。自家燃料やパルプ材として。

委員：

- ・新植をするための苗木の確保が難しくなっている。苗木屋さんが事業縮小しており、太陽光事業をはじめたりしている。

事務局：

- ・本日出た意見にもとづいて修正した上で、本報告書を本専門部会の成果として明日の新エネルギー推進委員会へ報告するというのでよろしいでしょうか。

一同：

- ・異議なし。

委員長：

- ・私たちの思いを入れてもらった報告書になった。新エネルギー推進委員会に報告したい。具体的な施策を実施していき、少しでもこの地域の林業を推進することになげたい。今後ともよろしく願います。

(2) その他

事務局：

- ・その他意見等ないか。

一同：

- ・なし。

事務局：

- ・具体的な施策を生み出すことを期待された専門部会であった。委員、アドバイザーの方々、ありがとうございました。新年度早々、具体的な事業を実践して成果を出したい。年度途中でも予算化していきたいし、マスタープラン策定の方向性が示された際には、改めてご協力をいただきたい。

以上にて終了